

おわら風の盆と歴史が息づく北陸路を訪ねて（1）

長崎史談会 監事 山口篤史

長崎史談会の秋の研修旅行は9月3日から5日まで2泊3日の日程で滋賀県や岐阜県、富山県の古刹や史跡、祭りなどを巡りました。昨年、原田会長が富山県高岡市で黄檗宗について講演されたことや今年のランタンフェスティバルを高岡市長高橋正樹氏が視察されたり、本史談会幹事の松澤君代さんが高岡市との交流に尽力されていることなどから今回の「越中訪問」となりました。一行は原田会長をはじめ宮川名誉会長、会員、一般参加など43人。ご夫婦や姉妹での参加も見られました。参加者は眠い目をこすりながら長崎空港に7時すぎに集合。8時05分に飛び立ち、9時すぎ伊丹空港に降り立ちました。

最初の訪問地は滋賀県大津市の石山寺(石光山・真言宗御室派)。ちょうど琵琶湖の南で、境内の高台から瀬田の唐橋が眼下に望めます。本尊は如意輪観音。西国三十三ヶ所観音霊場第十三番札所。源頼朝の寄進と伝わる東大門(山門・重文)をぐり、しばらく歩いて右手の階段を上ると本堂です。



石山寺の東大門で全員集合

正堂(国宝)と礼堂(国宝)は1間幅相の間という建物でつながっています。紫式部が源氏物語を執筆するため7日間参籠したといわれ、この中に「源氏の間」と伝わる小部屋があります。そこには十二単の紫式部(等身大人形)が座っていました。

境内には石山寺の由来となった霊岩(珪灰石)がみられます。また淀君が建立した礼堂、源頼朝寄進の高さ約17メートルの多宝塔(国宝)など歴史上の著名な人物が多く登場する由緒あるお寺です。

今回の旅行のハイライトの一つは富山市八尾町で繰り広げられる「八尾おわら風の盆」。毎年9月1日から3日まで行われます。坂の多い道筋で、深く編笠をかぶった

男女が哀調のある音色の胡弓の調べで踊る富山県の代表的な祭りです。参加者の中には「ぜひ私も一緒に踊りたい」と浴衣を持参した方もおられました。



おわら風の盆の町流し

この日の宿舎は八尾町から少し離れた「いいの村磯波風」。着いたのは薄暮の6時ごろでした。荷をほどく間もなく、夕食もそこに宿舎のバ

スに分乗して祭りの会場へ。なるほど3日間で23万人にもなるといわれるほど浴道には見物客がびっしり。曳山展示館で披露される踊りをたっぷり鑑賞。そのあとは道筋で踊る「町流し」を人混みに押されながら見物し、「越中の人」になりました。

宿舎で入浴を終えてくつろぐと、誰からともなく「夕食はうまかったね」「そうさ、富山は山海の食材が豊富だからね」「もう少し時間をかけて食べたらもっとうまかったやろうにね。残念…」

2日目は富山県南砺市の山間部にある越中五箇山の合掌造りを見学しました。白川郷とともに世界遺産に登録されています。茅葺屋根の三階建て。国指定重文の村上家で当主が民謡「こきりこ節」を披露し、合掌造りのもとの生活ぶりを語ってくれました。火薬に使われる煙硝の製造の歴史もあります。江戸時代は加賀藩の流刑地で、目の前の庄川の対岸に政治犯を収容。その流刑小屋が再現されていました。(続く)

*****新刊書紹介*****

原田博二 福田八郎 小松勝助 監修
 古来から国際交流の窓口となった「長崎」を学ぼう！

長崎県 謎解き散歩

長崎県七ヶ浜町 教養館 七ヶ浜町 教養館 出版 長崎県 七ヶ浜町 教養館 出版 長崎県 七ヶ浜町 教養館 出版

原田博二 福田八郎 小松勝助 著
 214 新人物文庫 800

今年九月、新人物文庫から、謎解き散歩シリーズ「長崎県」版が刊行されました。本書には長崎史談会の幹事十二名の方々も執筆しておられます。ぜひご購入願います。本会では定価八〇〇円十税のところを六八〇円にて頒布しております。ご希望の方は本会原口和代(090-1196-3751)までお申し出ください。